

愛媛大学子ども守り隊～守るんジャー～（愛媛県）

活動地域と団体概要

それではこれから、私たち、愛媛大学子ども守り隊「守るんジャー」による、見守り活動におけるその効果と課題について発表したいと思います。

私たちは、愛媛県松山市から来ました。愛媛県松山市は、松山城、道後温泉、「坊っちゃん」の題材となったまちとして有名です。私たちは、松山市立道後小学校で活動しています。私たちの活動している道後地区は、昔からの住宅街であり、道幅も狭く歩道も十分に整理されていない箇所が通学路となっており、危険な地区になっています。右下の写真が道後小学校です。

それではなぜ、子供の見守りが今必要なのでしょう。それは、社会の変化が背景にあると思います。まず一つ目に不審者の出没があります。先ほども述べられたように、東京都において、下校途中の小学生を刃物を持った男が襲うという事件が起きました。また、私たちが子供の時と比べてみると、子供たち全員が、防犯笛、防犯ブザーを持っているという現状があります。このことから、不審者が増加しており、危ないという認識が広がっているのではないかと思います。

二つ目に、子供たちの家族形態も核家族に変化しており、また、共働きの親も増えるという状況にあります。このことから、社会のつながりが希薄であり、社会で子供を守るのが難しい時代であると言えます。

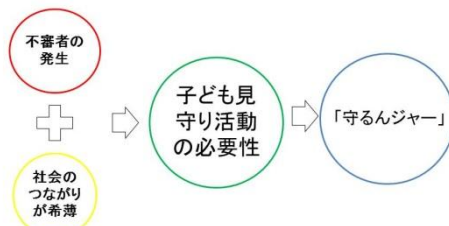
以上の2点から、子供の見守り活動の必要性があると、私たちは考えます。そして、学校や警察の方々だけではなく、地域に携わる私たちも何か貢献できるのではないかと思います。「守るんジャー」の活動を続けています。



1、松山、道後について



2、子ども見守り活動の必要性



3、守るんジャーとは



- 平成18年に結成
- 愛媛大学の学生で構成(約30名)
- 法文、教育、工、理、農学部で構成

愛媛大学

次に「守るんジャー」について説明をします。「守るんジャー」は、平成18年に結成されて、現在結成7年目です。愛媛大学の学生で構成しており、現在は新入生も入って35人で活動しています。教師を目指している人以外にも、子供が好き、ボランティアをしたいという人が入っており、法文学部、教育学部、工学部、理学部、農学部等で構成されています。この写真は、卒業する「守るんジャー」に毎年道後小学校から

感謝状が贈られるのですが、この真ん中に立っている男性が持っている賞状が感謝状です。

活動の概要

4、活動内容

1、子どもの見守り活動

- 日時: 週に2回15:00~16:00
- 場所: 道後小学校区
- コースに分かれて児童と一緒に下校
- 児童への指導
- 交通ルールの遵守
- 地域の人へのあいさつ



愛媛大学

「守るんジャー」の活動内容について説明します。まず一つ目に、子供の見守り活動があります。見守り活動といえば、横断歩道等で旗を持って立っているというイメージが強いかもしれませんが、私たちは週に2回道後小学地区で、小学校から子供たちの家まで、5つの登下校コースに分かれて一緒に下校しています。その中で、交通ルールの順守や、地域の人へのあいさつを子供たちに指導しつつ楽しく帰っています。

二つ目に、学校行事に参加しています。運動会、遠足、キャンプ、ふれあい給食、マラソン大会、道徳の授業等、さまざまな行事に参加させていただいています。写真左は、道後小学校の運動会に参加させていただいた時の写真で、写真右が、防災キャンプで空き缶を使って炊き込みご飯をみんなで作った時の写真です。

4、活動内容

2、学校行事への参加

- 運動会、遠足、キャンプ、ふれあい給食、マラソン大会、道徳の授業



4、活動内容

- 児童だけでなく、学校の先生、保護者、地域の方との関わりも大切にしている



愛媛大学

「守るんジャー」は、児童だけではなく、学校の先生、保護者、地域の方との関わりも大切にしています。これらの活動が、多くの人に「守るんジャー」を認識していただく機会になっていると思っています。写真左は、道後公園で遠足をした時の写真で、写真右は、キャンプで子供たちが自分たちでアルミホイルを使って、バウムクーヘンを作っている時の写真です。

次に見守り活動について説明します。私たちは5つのコースに分かれて下校しています。それらのコースにはそれぞれ特徴があり、危険な点を挙げてみました。交通量が多い、歩道が狭い、自転車が多い、歩道が無い、見通しが悪い、用水路があるという点が挙げられます。

それぞれのコースについて、具体的に見ていきたいと思います。まず、左側の写真を見て下さい。住宅街なので、見通しが悪い事が分かります。また、ミラーが無いので、車が来ているかどうか確認しづらいです。そこで私たちは、子供に一時停止をして左右を確認してから、渡らせるようにしています。右の写真は歩道が狭いので、他の通行人が来た時に通りづらくなることがあります。また、このようなバス等の大きい車両も通る交通量が多く危険な場所です。そこで私たちは、歩道からはみ出ないように、また、他の通行人にも注意をしながら下校するようにしています。

次は5コースの写真で、このコースの特徴は用水路があることです。以前は用水路に葉っぱを流して遊んでいた子供たちが、遊びに夢中になって後ろから自転車が来ているのに気づかないということもありました。そのようなことがないように、用水路の反対側の家のほうを通らせるようにして、安全に帰るようにしています。

見守り活動の流れは、まず子供と一緒に下校します。そしてその活動が終わった後に、「守るんジャー」内で反省会を行います。そしてその反省点を、1年生の学年主任の先生に報告し、さらにまた次の活動に生かすようにしています。そして年に2回、「セーフティ

5、見守り活動

1、2コース
交通量多い
歩道狭い

3Aコース
歩道狭い
自転車多い

3Bコース
歩道がない

4コース
見通しが悪い
歩道がない

5コース
用水路がある
歩道がない

5、見守り活動



- ・見通しが悪い
- ・ミラーがない



- ・歩道が狭い
- ・交通量が多い

5、見守り活動



- ・用水路で遊ぶ
- ・自転車が通っても気づかない

5、見守り活動

反省点の共有



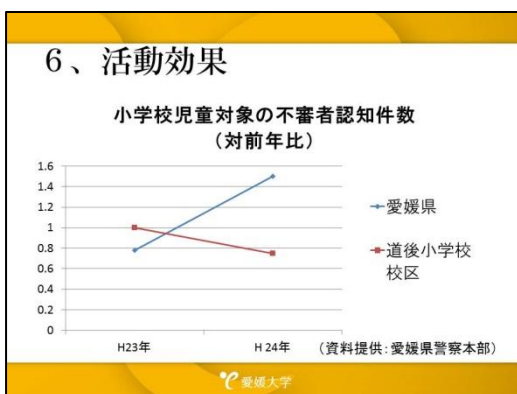
セーフティ道後(年2回)

- ・松山東署やボランティア団体との連絡協議会
- ・危険箇所について、意見交換

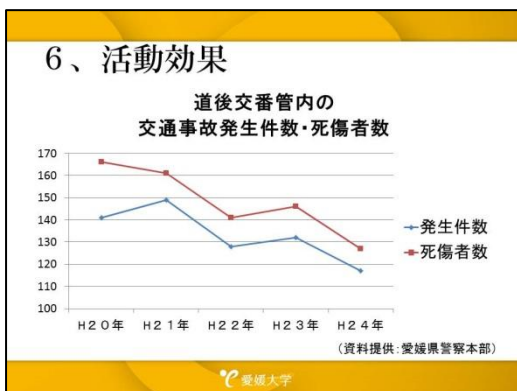
ィ道後」という松山東署やボランティア団体の連絡協議会に参加し、危険箇所について意見交換しています。この「セーフティ道後」の協議によって、信号機が設置されたという例もあります。

活動の効果と今後の課題

では、私たちの活動はどのような効果を生んでいるのでしょうか。まず、交通量の多い場所や危険箇所での注意喚起をすることで、交通事故を防止できていると考えています。また、私たち大人が子供と一緒に下校することによって、不審者が声掛けできない状況を作り、犯罪の防止につながっていると考えます。



実際のデータを見てみます。これは、小学校児童対象の不審者認知件数を前年と比べたものですが、このグラフの見方は、その年の件数を前年の件数で割ったので、この1のラインが前年と同じということになります。愛媛県全体で見ると、23年は22年に比べて減少していたのですが、24年になると大きく増加していることが分かります。道後小学校区では、23年は22年と同じ件数で、24年になると減少しています。



次に、道後交番管内の交通事故発生件数と死傷者数の数です。死傷者数は児童のデータではないのですが、道後全体で発生件数、死傷者数ともに減少していることがわかります。この2つのグラフから、不審者の数も、交通事故の発生の数も減少していることがわかります。私たちの活動によって減少していると断定することはできませんが、私たちの活動が貢献している

のではないかと考えます。

そして二つ目に、地域と学校をつなぐ役割をしているのではないかと考えています。先日、子供を見送った後に、小学生があいさつをしてくれないと嘆くおばあちゃんに会いました。本来そのことは、保護者やその家庭の問題ですが、普段関わる機会がないので私たちに言ってくれたのだと思います。私たちはその意見を学校に報告し、学校から家庭に報告していただきました。このように、私たちは地域の人、学校、家庭の間を取り持つことができるのではないかと考えています。

しかし「守るんジャー」は、良いことばかりなのでしょう。私たちの問題点についても改めて考えてみました。まず地域の人との関わりで、活動が地域の人にまだ広く認知されていない問題点があると思います。また、児童との関係では、児童が私たちを友達の延

長として接してしまう。そして私たちの問題として、私たちが児童を甘やかしてしまいがちという点が挙げられると思います。

それを踏まえて今後の課題としては、地域の人との信頼関係を築くために、地域のボランティアなどに積極的に参加して、多く人に「守るんジャー」を知ってもらいたいと思います。また、片親や共働き等、複雑な家庭環境の子が増加している中で、子供に寄り添えるような関係を築いていきたいと思います。そして、けじめのある付き合い方をしていきたいと思います。

私たちは子供の命を守るという役割を果たさなければならないので、危ない時には危ないと叱る、また左右がきちんと確認できている時には褒めるなどして、けじめのある付き合い方をしていきたいです。

最後にまとめとして、私たちは地域、家庭と学校の隙間を埋められるような役割を果たしていきたいと考えます。先ほどの、あいさつを心配したおばあちゃんの例にもあったように、私たちは学校と、地域と家庭の両方を取り持つことができるという意味を込めて、「守るんジャー」を真ん中に持ってきました。そして、下校時にいつも学校の先生が、「守るんジャー」は先生の代わりだから、きちんと言うことを聞いてねと言われるので、先生の役割も果たせると思いましたし、あと児童に寄り添うという意味を込めて、親としての役割と書かせていただきました。先生や親のような役割を果たし、地域や学校、家庭から必要とされるように、これからも活動していきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

8、今後の課題

1、地域の人との信頼関係

- 地域のボランティアに参加し、認知度をあげる

2、子どもに寄り添う

- 複雑な家庭環境の子増加

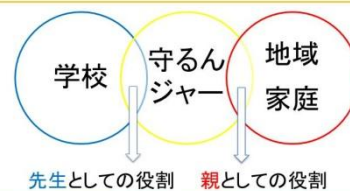
3、叱る、褒める

- けじめのある付き合い方

愛媛大学

9、まとめ

地域、家庭と学校のスキマをうめる



愛媛大学

質疑応答

●質問 お若い方が頑張っておられて尊敬の念をもっております。われわれ高齢化を迎えておりますパトロール隊ですが、うらやましいかぎりです。ただ一つ気になったのが、皆さん学生さんで勉学が一番大事ですよね？ その両立はどう工夫なさっていますか？

○回答 私たちの活動は授業の合間なので、週に2回といっても全員が参加できるわけではありません。授業時間に重ならない人だけ参加して、勉強はちゃんとして、この活動もきちんと両立できるようにしています。

●質問 しっかりした考え方をもって活動されておるので素晴らしいと思っております。子供たちの帰る時間帯などについては学校と連携をとって、週間の予定とかをもらって、

その時刻に合わせて行動しているのですか？ それからもし途中で早く帰るというような場合は、どのように連絡を取っているのでしょうか？

○回答 毎月初めに学校の先生から月の予定を貰いますが、終業式の日など早く帰る日はその時間に「守るんジャー」も合わせるようにしています。日によっては活動人数が少なくなってしまうこともあるのですが、行ける人は行くようにしています。また、私たち部長や副部長は、道後小学校と連絡が取れるように電話番号の交換をしているので、急な予定変更で先生から連絡がきたら、すぐそれを「守るんジャー」内でメールで回して、変更があったのでこの日に参加できる人は連絡くださいという対応をしています。

●質問 保護者さんとの連携、保護者が皆さんの活動をどう思われているかについて教えていただくと参考になりますけど、よろしくお願いします。

○回答 道後小学校のお父さんたちで結成された「親父の会」が定例会を毎月1回開きます。「守るんジャー」もそれに参加させていただいて、そこで実際にお父さんたちの意見を聞くことがあります。その中で、よく「守るんジャー」ありがとうございますと言われるので、保護者の方も「守るんジャー」のことは良く思ってくれていると思います。